



2018年(平成30年)12月20日発行

特定非営利活動法人  
あきたスギッチファンド

TEL 018-839-8941

FAX 018-829-5803

e-mail [madoguchi@sugicchi-fund.jp](mailto:madoguchi@sugicchi-fund.jp)<http://www2.akita-kenmin.jp/~akita-npo-fund/>

## Topics

- ★ 11月に秋田銀行行員有志の皆様から約95万円のご寄付を頂戴しました。今回は、冠ファンド「秋田未来づくりファンド」として、明るい未来の創造を目指す事業に助成します。第21回(2019年5月)助成事業で、20万円コースを1団体、30万円コースを2団体募集する予定です。

## あきたスギッチファンドの活動(8月~12月)

10月 9日	第15回チャリティ・ゴルフコンペ in 樺台 於：秋田樺台カントリークラブ
10月14日	助成事業報告会(第16回、17回助成)
10月 1日~11月 1日	第20回本ファンド助成事業 募集
12月 1日	第20回本ファンド助成事業 審査会 於：遊学舎

- ★ スギッチファンドの12月20日現在の寄付金額は 2,577,267円です。多くの皆様のご支援に感謝申し上げます。

## 今後の予定

- 1月14日(月 祝日) 10:00~16:00  
第8回スギっ子CUP キッズフットサル交流大会  
於：秋田県立体育館  
主催：一般財団法人秋田県総合公社県立体育館事務所  
共催：認定NPO法人あきたスギッチファンド  
総合スポーツ振興団体NPO法人Fan  
参加 24チーム  
※あきたスギッチファンドは共催団体として、大会開催に協力することで、スギッチファンドへの理解と支援を頂きます。
- 2月 5日(火) 8:00~14:00  
第8回チャリティグラウンド・ゴルフ大会  
於：秋田県立中央公園内 スカイドーム  
主催：認定NPO法人あきたスギッチファンド  
参加費 一人1,000円 募集人数 250人



## 第20回本ファンド（2018年度第2回）助成事業決定

第20回の本ファンド募集は、10月1日～11月1日。同時に冠ファンド「若者の活動を支援するファンド」、「病児の支援活動を応援するファンド」の募集も行った。

審査委員は、下記の通り19回と同じ。また今回秋田銀行行員有志からの寄付金で組成した冠ファンド「若者の活動を支援するファンド」には、秋田銀行営業本部地域未来戦略部次長田村健氏、「全国心臓病の子どもを守る会秋田県支部」からの寄付金で組成した冠ファンド「病児の支援活動を応援するファンド」には、同支部代表の滝波洋子氏にも審査に参加して頂いた。

栗谷 侑志	株式会社ワーズ
小室 秀幸	(株)小室経営コンサルタント代表取締役 インキュベーションマネージャー
佐々木 美奈子	NPO法人いきいきFネット秋田 理事 秋田県男女共同参画センター 副センター長
高橋 雄悦	株式会社秋田魁新報社 総務局 局長
沼倉 充	NPO法人秋田県南パソコン支援市民ネット 副理事長
村岡 典子	まちなかトープ 代表
鷺谷 昇	秋田県あきた未来創造部 地域の元気創造課 県民協働推進班 班長

12月1日（土）遊学舎での公開審査会では、各団体のプレゼンテーションに活発な質疑応答があった。審査員の選考検討協議では、各団体の事業の継続性への取り組みや、事業の成果をどう捉えているかという点をもっと考慮すべきということが話題になった。30万円コース、50万円コースの応募が多くあり、どの事業も甲乙つけ難く審査は難航した。なお、選考委員が申請団体や申請事業の関係者である事業が今回1件あり、書類審査、公開審査ともに審査には加わらなかった。

### 募集、応募、採択状況

助成額	募集件数	応募件数	採択件数
上限10万円コース	2	3	2
上限30万円コース	3	6	3
上限50万円コース	2	6	2
冠ファンド 若者の活動を支援	1	1	1
冠ファンド 病児の支援活動 上限10万円コース	1	0	0
上限20万円コース	1	1	1



## 本ファンド

### 10万円コース

団体名 特定非営利活動法人サポートセンター・ビーイング（湯沢市）  
事業名 ビーイングふれあい出前コンサート

障がい者と健常者が“ふれあえる”機会は、地域にまだまだ足りない。両者の理解促進を目的として、音楽コンサートを開催する。

雄勝高等学校体育館を会場に、雄勝高等学校、稲川支援学校の生徒たち、教職員、保護者、地域障がい者施設利用者、地域住民など300名の参加を予定。①小川ロン氏によるコンサート ②ビーイング理事長による講話 ③参加者の意識、理解を問うアンケート調査を実施する。

この事業を通して、地域に暮らす様々な人を理解し、互いに尊重する意識や地域を大切に思う気持ちを高める。特に地域の高校や支援学校との協働で実施することで、情操教育や多様性への理解促進を進めていきたい。

団体名 秋田エアロフェスティバル実行委員会（秋田市）  
事業名 秋田エアロフェスティバル畑田美紀スペシャルレッスン



秋田ではエアロビクスの指導者が育たず、最新のエアロビクスを体験することができない。

今回2016年のダンスフィットネス大会で優勝した畑田美紀インストラクターを講師に迎えてスペシャルレッスンを行う。エアロビクス及びダンスエアロの基本的な動作を確認するワークショップと、それに続いて学んだステップを使ったエアロビクスのレッスンを体験する。愛好者や指導者に多く参加してもらい、秋田のフィットネスの普及と振興に繋げたい。

### 30万円コース

団体名 トーブ・木こりっこ（北秋田市）  
事業名 間伐材と支障木の活用



樹木、草木豊かな北秋田市であるが、山林の担い手不足による森林荒廃、獣害、病虫害発生等が見られる。今、組織的に里山整備に取り組み、荒廃の原因である支障木、間伐材、根材の処理をする、そしてそれを加工して製品化する。伐採後の根材を軽トラックで搬出することから始め、炭焼き、薪作り、木ろうそく、割り箸の製作、木のおもちゃ作り等を行う。高齢者と若者が共に活動する体制を作り、里山対策を進める。また製品の販売にも取り組みたい。

団体名 科学する心を育む会（由利本荘市）  
事業名 第32回科学のひろば

近年、子どもたちに理科離れが見られる。モノづくりや実物を見る機会が少なく、学校でも実験の時間を確保することが難しい現状が原因ではないかと思われる。

そこで、小・中・高校生に実験を通して科学への興味関心を高める「科学のひろば」を、県立由利工業高等学校を会場に開催する。七宝焼き、電気を学ぶ、スライム時計、過冷却現象、液晶を使った小物作りなどをテーマとしてブースを設け、小・中学生が随時移動しながら実験していき、高校生が指導するという形をとる。

参加者の科学への関心を高め、科学的なものの見方・考え方を育成することを目指す。

団体名 湯沢びじんプロジェクト（湯沢市）  
事業名 小町の郷・びじんのまちづくり事業



“びじん”をキーワードに、湯沢市を他地域の人々に理解してもらう一つのてがかりとして、平成25年から「びじん証明書」を発行、約2000枚に達しようとしている。

これを新元号となる次年度に向けて、「びじん証明書」と「びなんし証明書」に発展させ、プレミアム感のあるデザインにリニューアルする。この証明書は、漢字表記の「美人」ではなく平仮名で「びじん」と表記し、容姿の美より内面美、行動美など幅広い観点から捉えている。これを持つことがひとつの価値になり、湯沢ファンを増やすことに繋げたい。さらには関連団体と連携し、観光、経済の活性化へ波及するように展開していきたい。

## 50万円コース

団体名 特定非営利活動法人eナビステーションりあん（能代市）  
事業名 シニアを支える事業を周知するためのHP作成

今年、能代市、三種町、藤里町、八峰町の移住定住活動や高齢者支援活動に携わる有志が集い、超高齢化社会の課題の解決に広域で取り組むNPO法人eナビステーションりあを設立。主な事業として、移住定住の促進、空き家・空き地の管理と利活用、地元高齢者の健康寿命促進、墓じまい、成年後見人などの終活対策などを計画している。

今回はホームページの開設、チラシの作成などを行って、事業を地元の親所帯と共に遠隔地に住む親族などにも広く知ってもらう。また帰郷する親族向けの相談会、セミナーなども実施する。

団体名 びーらぶ秋田（秋田市）  
事業名 『暴力被害女性支援者養成講座』等の開催

この会は、ドメスティックバイオレンスや虐待の被害当事者の心理的回復の支援を通して、人権尊重の意義を社会に浸透させ、暴力を選ばない社会を目指すことを目的として活動している。

今回は、専門家を講師に「暴力被害女性支援者養成基礎講座」を開催する。暴力の影響や構造等の基礎的な知識と共にDVや虐待を受けた子どもや女性への支援を学ぶことを目的とする。またびーらぶプログラム周知のためのリーフレットを作成する。

ひとりでも多くの方が暴力について正しい知識を学ぶことで、地域社会が暴力を選ばない、一人ひとりが尊重される社会の実現に繋げていきたい。

## 冠ファンド 「若者の活動を応援するファンド」

### 10万円コース

団体名 湯沢ストリート村実行委員会（湯沢市）  
事業名 中学生食堂×高校生クリエイトキャンプ in 犬っこまつり

日頃湯沢市に賑わいを創出するため活動している若者たちが、犬っこまつりに合わせて、地域の学生と商店街の人たちが交流し伝統行事を盛り上げる事業を実施する。中学生が開発したビビンバ丼をまつりのサブ会場内で300円で提供する。同時に同会場で高校生が講師となり、地域プロモーション動画の編集方法やカメラワークを学ぶクリエイトキャンプを行う。

社会と学生の接点を作り、地域交流のフィールドを広げる一歩としたい。

## 冠ファンド 「病児の支援活動を応援するファンド」

### 20万円コース

団体名 もぐもぐ  
事業名 食物アレルギーの子ども応援事業

近年増加している食物アレルギーの子どもは、他の子どもたちと同じ物を食べることができないため、生活に様々な支障を来している。

今回、医師や関係団体を講師に、食物アレルギーに対する知識を学ぶ講座を2回開催する。この講座をきっかけに、関係機関との連携が深まると共に、食物アレルギーの子どもとその保護者の横のつながりが構築され、子どもたちが安全安心な食生活を送ることができるようにしていきたい。



# 事業報告会

10月14日（日）遊学舎に於いて、第16回・第17回助成事業報告会を開催した。

第16回助成事業：平成28年度第2回の助成で11団体、事業実施期間は28年12月4日から29年8月31日

第17回助成事業：平成29年度第1回の助成で12団体、事業実施期間は29年7月10日から30年2月10日

今回は例年とちょっと趣向を変えて、助成事業の発表展示のフォームを統一し、同じもののコピーを小冊子にして参加者に配布して、助成事業の発表と質疑応答の時間を短縮した。そしてその分助成事業に関する意見交換会に時間を当てた。

当日のプログラムは、

- ① 助成事業の成果紹介
  - 若年性認知症家族の介護からみる支え合い事業（若年性認知症サロン「つぼみ」の会）
  - 秋田 生き生きパソコンクラブ（ぱそらいふ秋田）
  - 子ども食堂が地域を変える（向能代子ども食堂）
- ② グループに分かれて意見交換会 「NPO 活動と助成金」
- ③ 各グループの意見交換の結果報告・共有

3団体による助成事業の成果報告の後、参加者は3グループに分かれて、「NPO と助成金」について話し合い、最後にその結果を発表し、全体で共有した。

「NPO と助成金」の意見交換のなかから

- ・助成金の申請について
  - 助成金があるから事業をするのではない。
  - 課題をしっかりと捉えて、伝えたいポイントをわかりやすく書くことが大事。
  - 助成金の申請なれしている団体は書き方が上手で有利なのではないか。
  - 費目がわかりにくい。概算払いがわかりにくかった。
- ・助成金の募集時期について
  - 事業期間が短い、もっと早く（3月頃に）募集を開始して欲しい。
- ・助成金額について
  - 30万円の助成があれば、県外の講師をお願いすることができる。
- ・活動のPRについて
  - 周知方法の工夫、マスコミへの働きかけなど。



左：助成事業の成果紹介  
右：「NPOと助成金」の意見交換会



展示形式を統一してシンプルに



## 冠ファンド「秋田銀行行員有志支援による」

### 助成プログラムの実施報告

平成 26 年、秋田銀行様本体に加えて、行員の皆様にご寄付をお願いしましたところ、あきたスギッチファンドの趣旨にご賛同頂き、多額のご寄付が寄せられました。以後平成 27 年、28 年、29 年と継続してご寄付を頂き、総額は 4,033,010 円になりました。なお 30 年度にもご寄付頂いておりますが、これは来年度に募集します。

当ファンドでは、高齢化先進県秋田の課題解決につながるような事業を対象として助成して欲しいという寄付者の意向をうけて、毎年冠ファンド「活力ある高齢社会づくりファンド」として 2 事業、その他分野別ファンドにも助成してきました。

#### 助成事業一覧

年 度	助 成 事 業 名
平成 26 年度  (26 年 12 月～27 年 8 月事業実施)	冠ファンド 活力ある高齢社会づくりファンド (30 万円助成) 「あきたシニアカレッジ」 「運動と会話で生活習慣病や要介護を予防」 分野別ファンド 雪に負けない地域づくりファンド (10 万円助成) 「旭ヶ丘 2 区共助・除雪隊」 (大館市) 「羽場・市野・皿小屋地域生活サポートシステム」(湯沢市)
平成 27 年度  (27 年 12 月～28 年 8 月事業実施)	冠ファンド 活力ある高齢社会づくりファンド (30 万円助成) 「高齢者の生きがいの場創出事業」 「本を通して『老い』を考える」 分野別ファンド 若者の活動を応援するファンド (10 万円助成) 「イマドキ女子のための日本酒入門」 「秋田の若者に国際協力を広める活動」
平成 28 年度  (28 年 12 月～29 年 8 月事業実施)	冠ファンド 活力ある高齢社会づくりファンド (30 万円助成) 「秋田生き生きパソコンクラブ」 「農村と都市をつなぐシニア交流事業」 分野別ファンド 若者の活動を応援するファンド (10 万円助成) 「自分ごとから世の中を変えるための仕組み」 「秋田アートクラフト市」
平成 29 年度  (30 年 7 月～31 年 2 月事業実施)  (30 年 12 月～31 年 8 月事業実施)	冠ファンド 活力ある高齢社会づくりファンド (30 万円助成) 「“和の文化”再発見プロジェクト」 「人生の最後まで美味しく食べることの地域づくり 最後まで口から食べる県、秋田」 冠ファンド 若者の活動を応援するファンド (10 万円助成) 「おおだてまちづくりミーティングプロジェクト」 冠ファンド 若者の活動を応援するファンド (10 万円助成) 「中学生食堂×高校生クリエイティブキャンプ in 犬っこまつり」

## 28年度実施事業から

### 農村と都市をつなぐシニア交流事業

団体名： ちっちゃいもの倶楽部

代 表： 男鹿 仁

大仙市太田南部地区では、農業に携わるシニア世代が活発に農業、農産物加工などに取り組んでいるが、活動が地域内に止まっているのが課題だった。そこで、シニア世代を中心に運営されている地域コミュニティの会議へ若者が参加することで、シニアと話し合う機会を増やし、地域のシニアからいろいろな情報が得られるようになり、いくつかの活動を実施することができた。

太田地区で行われる火祭りと紙風船づくりには、若者が介在することで地域のシニアと秋田市のシニア団体が積極的に交流できるようになった。

太田の農産物を若者が支援して、秋田市に出向いて販売するという活動を7回実施した。生産者情報を伝えることで、販売されているのがどこの野菜かが明確になり、太田の農産物のPRに繋がったと思う。今回の活動を通して、地域の若者とシニアが会って話す機会が増え顔見知りになることで、地域のことや困っていること、大変なこと、これからの農業等、いろいろな情報を交換できるようになった。



## 30年度実施事業から

### 「和の文化」再発見プロジェクト

団体名 “秋田の文化”再発見の会

代 表 野口 千恵子

最近日常生活から和の文化が失われてきている。和の文化に親しんだ経験のあるシニア世代が中心となって、和の文化を再発見するイベントを11月に開催した。

「和の文化の魅力を知る」講演会と、遊学舎の「昭和館」を「和の空間」にしつらえ、和の文化を体感できる事業の2部構成で実施した。

今回の事業を契機に、シニア世代が和の文化の価値を再認識し、継続的に若い世代や外国人に伝える役割を担えるように努めていきたい。



## あきたスギッチファンド寄付者一覧（平成30年8月～平成30年12月）

※敬称略、順不動、お名前の公開許可を頂いた方のみ掲載します。

団体・企業等	株式会社福岡ドライクリーニング、株式会社あくら、 みちのくコカ・コーラボトリング株式会社、有限会社ワタ商事、株式会社伊藤園秋田支店、 サントリービバレッジサービス(株)秋田支店、ダイドードリンコ株式会社、(株)秋田銀行、 秋田県職員消費生活、椿台ゴルフクラブ、スギッチ応援隊、紡ぐ人、日本らんちう会、 チャリティコンサート祐徳会、オカリナひまわり、心庭
個人	菅原勝康、菅原勝耕、富樫嘉津恵、